

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	オークラ輸送機株式会社 本社ビル	階数	地上4F
建設地	加古川市野口町古大内字大野394-1	構造	S造
用途地域	準工業地域、第1種住居地域、第1種中密度住居地域	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2021年3月 0.0	評価の実施日	2019年12月13日
敷地面積	30,182 m <sup>2</sup>	作成者	鈴木 祥一郎
建築面積	1,509 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	4,435 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	92%
③上記+②以外の	90%
④上記+	90%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	3.2
温熱環境	3.0
光・視環境	3.3
空気質環境	3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性	3.7
耐用性	2.9
対応性	3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.8

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 2.9

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

建物外皮の	3.5
自然エネ	3.0
設備システ	2.7
効率的	2.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	3.4
非再生材料の	2.8
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.4
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	風の流れを表現した階段状のファサード、内外部の調和を図るカーテンウォール、人・空間・風・光をつなぐ吹抜を計画し、そして、昔から近隣の人々に親しまれてきた桜を中心とした庭・テラスの開放により地域のシンボルとなるオフィスになることを目指した。	その他
<b>Q1 室内環境</b>	執務室に面して外壁をカーテンウォールとすることで、積極的に自然光を取り入れ生活リズムに合うストレスの少ないオフィス空間を目指した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 植栽は沿道に計画し地域へ配慮した。また、桜の木を中心としたテラスを建物前に設け、地域住民にも開放できるように計画した。
<b>LR1 エネルギー</b>	カーテンウォールのガラスはLow-E複層ガラスを採用し断熱・遮熱性能に配慮した。また、その他の外壁は金属断熱サンドイッチパネルを採用し、断熱性能を高めるように計画した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 階段状の建物形状にすることで、風の流れを遮らないようにするなど周辺環境に圧迫感を与えないように考慮した。
<b>Q2 サービス性能</b>	将来への更新性を考え、OAフロアを採用したほか、ゆとりある階高により自由度を高めた。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	鉄骨造の採用、コンクリート強度の確保により、木材の使用を極力減らすように努めた。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される